



ブリヤート

-輝く太陽とバイカルに出会う場所-

旅を愛し、新しい発見を大切にされる日本の皆様へ



ブリヤート - それはバイカル湖のほとりにたたく驚きに満ちたいしへの地。ここで出会うのは果てしなく広がる草原、シベリアのタイガ、偉大なる山々、澄んだ川と鉱泉、そして聖なるバイカル・・・。

広々とした草原に思いを馳せる、太陽の光に輝くバイカル湖の波を眺める、その湖から澄み切った水をそのまま味わう。そんな体験をしてみたいと思いませんか。

ブリヤートの晴れ切った太陽とバイカルのたたえる自然、そして客好きな人々の笑顔に満ちたおもてなしでリフレッシュしてみませんか。このガイドブックを開いて、私たちの文化、歴史、習慣や伝統にぜひ触れてみてください。そしてぜひ私たち土地に遊びにお越しください。きっとそこにあなたの愛するブリヤートが見つかるはずです。

皆様のご多幸を祈りつつ
共和国立旅行代理店主任
リュドゥミラ・マクサノヴァ





概要

正式名称 - ブリヤート共和国。東シベリア南部、バイカル湖の東に位置する。

建国日 - 1923 年 5 月 30 日

面積 - 約 35 万 1 千平方キロメートル (ほぼドイツと同じ)

元首 - 大統領

言語 - ブリヤート語、ロシア語

民族 - ロシア人、ブリヤート人、エヴェンク人、その他

宗教 - 仏教、ロシア正教、シャーマニズム

人口 - 約 98 万 7 千人

人口密度 - 1 平方キロメートル当たり 3 人

首都 - ウランウデ

気候 - 大陸性気候。朝と昼の気温差が激しい。快晴の日が多く、年間300日以上晴れ。



夏にはもちろん自然に囲まれた砂浜のバカンスで疲れた体を休ませるのもよし、美しい水に戯れるのもよし、またはボートに乗って、まるで宙に浮かんでいると錯覚するほど澄んだ水の深みを眺めることもできますし、夕食のためにフィッシングを楽しむこともできます。夏のシーズンは2,3ヶ月、そのあとに続く秋にはバイカル湖一帯で黄金に咲き乱れる紅葉を楽しむことができます。9月、10月はまだそれほど寒くはありません。

1月から5月にかけて湖は厚い氷で覆われます。冬には冬の楽しみ方があります。そう、氷上の釣り、スケート、氷上の自動車レースなどです。冬のバイカルの景色は格別です。見渡す限り氷原が広がっていて、南極にいるかのような雰囲気味わえます。気温はマイナス14-17度と低いですが、風はほとんどなく、太陽が照らしてくれるのできっと皆様が想像しているよりは寒くはありません。



ブリヤートの山々は昔から散策の好きな観光客たちのメッカとなりました。登山家たちもブリヤートの山に冒険を求めて果敢に挑んできています。

最後に、有名なアルシャンを含め幾つもの保養地や温泉地があることも忘れてはなりません。保養地に数日滞在するだけで心も体もリフレッシュすることができるでしょう。



ブリヤート共和国への行き方

ブリヤートの位置はロシアの交通網の中で理想的な位置にあるといえます。国土の東と西、さらにはロシアとモンゴル、中国を結ぶ主要道路の交差点にあるからです。

日本からどのように行くことができるでしょうか。意外にも便利なのが、モンゴル経由です。成田からウランバートルまで飛行機で、そのあとウランウデまで列車かバスで広大なモンゴルの草原を見ながら来ることができます。または新瀉から飛行機でウラジオストクかハバロフスクまで、それからあの有名なシベリア鉄道で数日かけてくるという方法もあるでしょう。もう一つはモスクワ経由です。

ウランウデ市内は自動車道が整備されていますし、幹線道路が他のすべての町や村ともつながっています。市内の駅からは保養地アルシャンやイルクーツクへのバスも出ています。バイカル湖までは車やマイクロバス、電車などで行くことができます。一番近い湖畔までは2時間ほど到着できます。

ブリヤートー輝く太陽とバイカルに出会う場所



共和国立旅行代理店
670001 ブリヤート共和国 ウランウデ市 レーニン通り 54オフィス109
Tel 7(3012)21-27-14
Fax 7(3012)55-97-46
e-mail: kom-tur@mecn.govrb.ru
www.baikaltravel.ru

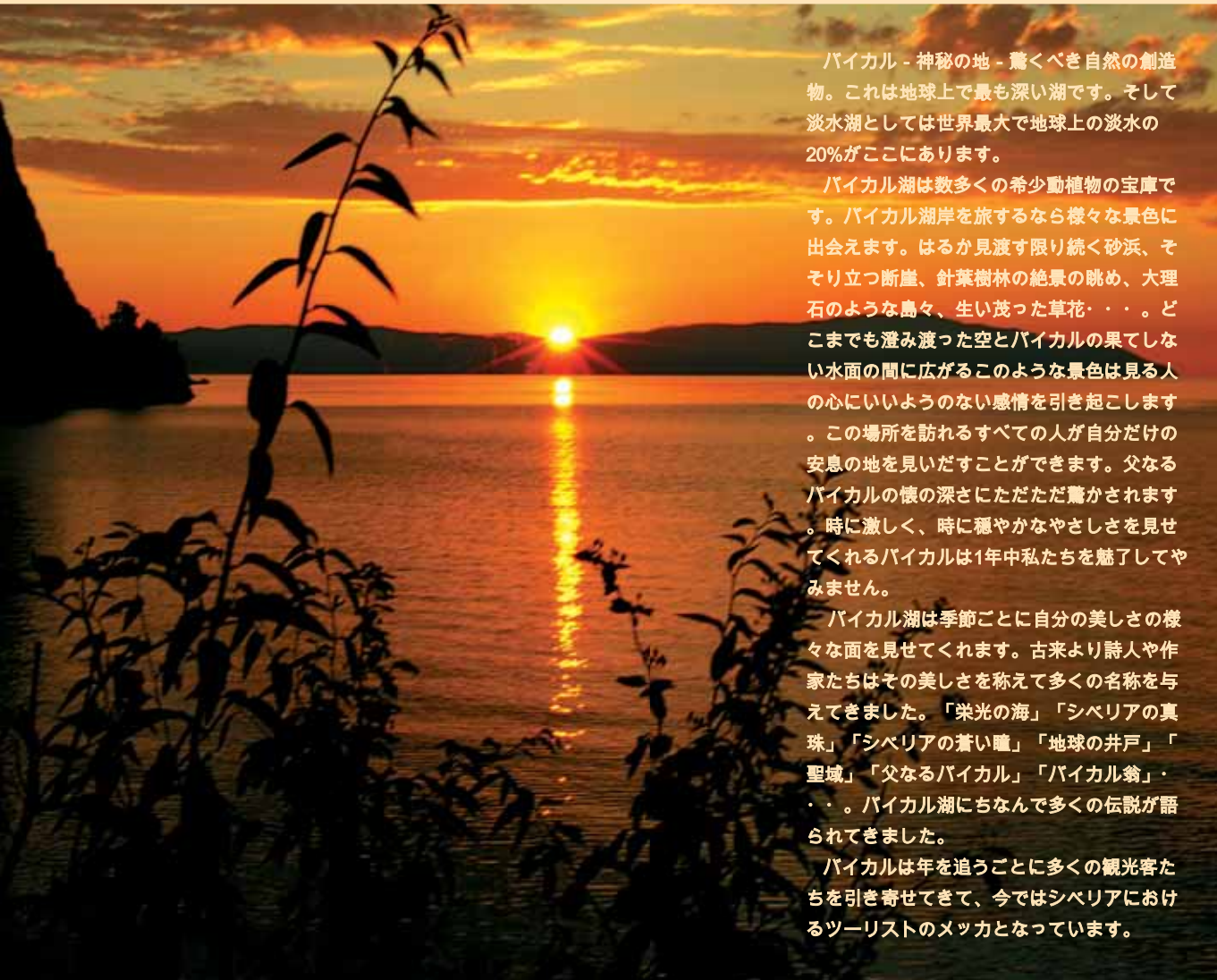
発行所：出版社「エコス」

ブリヤート共和国 ウランウデ市 カラダリシユビリ通り23オフィス20,24

Tel:7(3012)21-48-89, 21-85-65

e-mail:bpress@aif.burnet.ru

訳：須藤隆史 野村大祐



バイカル - 神秘の地 - 驚くべき自然の創造物。これは地球上で最も深い湖です。そして淡水湖としては世界最大で地球上の淡水の20%がここに 있습니다。

バイカル湖は数多くの希少動植物の宝庫です。バイカル湖岸を旅するなら様々な景色に出会えます。はるか見渡す限り続く砂浜、そそり立つ断崖、針葉樹林の絶景の眺め、大理石のような島々、生い茂った草花・・・どこまでも澄み渡った空とバイカルの果てしない水面の間に広がるこのような景色は見る人の心にいいようなない感情を引き起こします。この場所を訪れるすべての人が自分だけの安息の地を見いだすことができます。父なるバイカルの懐の深さにただただ驚かされます。時に激しく、時に穏やかなやさしさを見せてくれるバイカルは1年中私たちを魅了してやみません。

バイカル湖は季節ごとに自分の美しさの様々な面を見せてくれます。古来より詩人や作家たちはその美しさを称えて多くの名称を与えてきました。「栄光の海」「シベリアの真珠」「シベリアの蒼い瞳」「地球の井戸」「聖域」「父なるバイカル」「バイカル翁」・・・バイカル湖にちなんで多くの伝説が語られてきました。

バイカルは年を追うごとに多くの観光客たちを引き寄せてきて、今ではシベリアにおけるツーリストのメッカとなっています。

バイカル



バイカルアザラシ(ネルバ) - バイカル湖唯一の哺乳動物。魚オムリとならんでバイカル湖のシンボルとされています。

鉱泉

ブリヤート州には約300の鉱泉があります。有名な鉱泉はたいてい人目につかない、人があまり足を踏み入れない場所に位置しています。地殻変動によってできた山からはラドンを含んだものから硫化水素を含んだものまで実に様々な成分の水が出てきます。バイカルの北側にも温泉が数多くあります。水温は50度まで上がり、冬でも凍ることはありません。

ラドン泉に入ると、ふつう肌に少し強めの刺激を感じます。最初は少し驚かれるかもしれませんが、夜はぐっすり眠れること請け合いです。これらの鉱水は健康にとてもよく作用することで知られています。



バイカル湖の淡水はその透明度で有名です。しかも単に澄んでいるだけでなく、飲料水としても理想的なので、フィルターなど通さず湖から直接掬って飲むこともできます。その秘密は、水の中に住むエビシユラと呼ばれる微小な甲殻類の一種が常に水を浄化しているからです。そのため水分中に有機混合物や不純物がほとんどなく、高い透明度を保っています。バイカルの湖水には酸素が非常に多く含まれていて、湖周辺の酸素濃度は高くなっています。その酸素と周囲のタイガの匂いがあいまって湖の周りには独特の芳香が漂っています。バイカルで深呼吸をするなら、あなたの肺もこの空気で満たされ、きれいになることでしょう。





自然公園

植物がうっそうと生い茂り、幹周り1メートル半もある太古からの柳が今に至るまで立っていて、アンズ林がかぐわしい香りを漂わせ、エーデルワイスが顔を覗かせる…。ブリヤートにはそんな素敵な場所、自然保護区や国立公園があります。

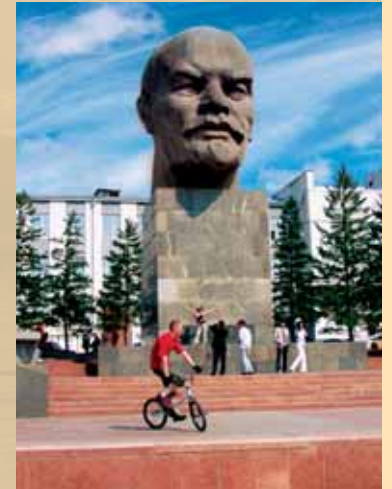
保護区内では伐採、車両の通行、狩猟は固く禁じられています。ここでは動物たちも安心して生活し、辺りは植物の緑の香りと鳥のさえずりに溢れています。観光客は生態系を壊さないよう作られた歩道を通って公園内を回ることができます。動物たちも人間を怖がらないで手から直接餌を食べることもあります。学者たちは常に公園内を見回り、生態系が壊されないように注意深く管理しています。ブリヤートには3つの自然保護区、2つの国立公園、20の禁猟区があります。それらの地域だけで共和国の9,3%の面積を占めています。リスが木の間を走り回る様子や、白鳥が優雅に湖を泳ぎまわる姿は必見の価値あります。





歴史

ブリヤートの歴史はとても古いもので、この地に最初に足を踏み入れたのはフン族、そしてモンゴル民族でした。ブリヤート人は西暦13世紀に沿バイカル地方に定住しました。彼らは馬や羊の群れ、ヤクやフタコブラクダさえも放牧していました。約300年前にこの地にコサックたちがやってきてモンゴルからの侵略者たちからこの地を防衛するために要塞を築きました。



2つの川の合流する場所に町が設立されヴェルフネウジンスクと名づけられました。17-19世紀にわたってここはロシア政府の東端の貿易の中心地でした。夏と冬に市が開かれ、そのため町の紋章にはマーキュリー（神話上の神。職人や商人の守護神）の杖と「豊穡の角」が描かれました。

ロシアから中国にこの町を通して皮、ラシャ、じゅうたん、蜂蜜、油、魚などが運ばれました。中国からは金、銀、真珠、宝石、シルク、木綿の布、食料品がやってきました。やがて積荷の中心はお茶になっていきました。お茶はロシア人の大好物です。この「ティーロード（お茶の道）」での取引高は「シルクロード（絹の道）」に次ぐものとなりました。現代ではこの「ティーロード」、ウランウデからモンゴルを通して中国に行く道は国際的な旅行ルートとなっています。

今日でも町には歴史を感じさせるシベリアバロック調の建物が多数残っています。しかしウランウデの一番の目玉はなんといってもソヴィエト広場の「レーニンの頭像」でしょう。これは世界最大の頭像としてギネスブックにも載っています。

宗教

ここにはるか昔から様々な民族や信仰を持つ人たちがお互い調和しながら平和に暮らしてきました。それぞれの民族に自分たちの習慣やしきたりがあり、お互いに敬意と配慮を払ってきました。主な宗教はキリスト教、仏教、そしてシャーマニズムです。



ロシア正教は17世紀半ばにコサックたちによってザバイカル地方にもたらされました。最初の教会は1648年にバルグジン要塞に建てられました。後にいくつかの修道院がバイカル湖岸に設立されました。今では男子修道院となっています。

1741年にヴェルフネウジンスク（ウランウデの旧名）に最初の石造りの主教座教会が建てられ、現在でもウランウデの中心地で美しく輝いています。

仏教はザバイカル地方にチベットから伝来しました。しかし、1741年に仏教がロシア帝国の国教の一つとして認められると、多くのダツアン（チベット仏教の礼拝堂）が建てられ、そこは哲学、医学、占星術、さらには絵画や彫刻も教える学問の中心地となりました。チベット語、モンゴル語、そしてサンスクリット語の本がそこで印刷されました。



シャーマニズムは最も古い宗教のひとつです。ブリヤートのシャーマニズムの発祥の地はバイカル湖にあるアリホン島 - シベリアの宗教の中心地 - であると考えられています。周りがある自然の力を神として崇める - これがシャーマニズムの特徴です。ですから彼らは自然界の力が戦や災害から守ってくれることを願ってタイルガンと呼ばれる祈禱をささげます。日本の神道に似ているといえるでしょう。





文化

ブリヤートの文化は長い年月をかけて育てられてきたアジアとヨーロッパの伝統と文化の結合であるといえます。そのためほかに例を見ないユニークなものとなってきました。

ブリヤートの現代文化は実に多方面にわたって栄えています。オペラやバレエを市内の幾つもの劇場で観賞することができますし、サーカス劇場ではプロダンス集団「バイカル」がモンゴルの神話や伝説に基づいたショーを見せてくれます。さらにウランウデにはブリヤート国立アカデミー劇場があり、ブリヤート人の劇作家の芝居や世界の古典を見ることができます。またコンサートホールでは定期的にプロミュージシャンたちの素晴らしい演奏を鑑賞することができます。劇場では毎週様々な作品が公演されており、レパートリーは次々と更新されています。

ブリヤート共和国には博物館も数多くあります。ウランウデ市内だけで7つの博物館があり、多くの村々にもそれぞれ博物館があります。

最も古い博物館は歴史博物館です。ここには10万点を超える展示品、シャーマニズム、仏教、ロシア正教に関する考古学的資料が納められています。芸術博物館では仏教の聖像画、絵画、銀や木の骨董品、馬の毛で織ったゴブラン織りを見ることができます。

バイカル湖の神秘にさらに触れてみたければ自然博物館へ。民族博物館にも忘れずに立ち寄ってみましょう。屋外に昔の旧教信徒たちの住んでいた家や遊牧民の移動式住居、当時の農作業道具など当時の人々の暮らしがそのまま再現されておりタイムトリップした気分を味わえます。さらにこの博物館にはユニークなことにブリヤートに住んでいる動物たちを見ることのできる動物園があります。ここでは狼、熊、らくだ、トラ、鹿、ヤクなどを見ることができます。ガイドに案内してもらいながら公園内をじっくり回ることもできますし、一人でゆっくりマイペースで散歩することもできます。



ブリヤートには民族的祝日、民族的遊び、古い暦、ブリヤートモンゴルのホロスコープ、カラフルな民族衣装、宝石や石の飾り、装飾や色、数字の象徴的な意味、伝統工業など興味深いものがたくさんあります。

ザバイカル地方に昔から住んでいる狩猟民族のエヴェンク族は自分たちの文化を忠実に守ってきました。彼らの文化は人間と自然の強い結びつきに基づいており、そのことは彼らの歌や踊りの中に特に見られます。その中でこの民は自然界に響く音や動物の鳴き声を模倣してきたのです。

ブリヤートにおけるロシア人の文化は、セメイスキイという旧教信徒のおかげで守られてきました。彼らの何部にも分かれて歌う合唱は、彼らの荘厳な儀式や伝統衣装とあいまって観客たちに特別の印象を与えます。セメイスキイの文化はユネスコの歴史文化遺産に指定されています。

今日のブリヤートの文化はこのように多様に満ち、高い芸術性を持っています。ブリヤートを訪問すると文学、オペラ、バレエ、劇、音楽、彫刻、絵画、サーカスなど多方面にわたって文化が花開いている様子を見ることができます。



ブリヤートには多くの国民的、また伝統的祝日があります。代表的なものはサガルガン、マースリニツア、復活祭、スルハルバンなどです。



伝統

サガルガンというのはブリヤート語で「白い月」を意味します。太陰暦の新年が始まる2月に祝われます。ここブリヤートでは民族や信仰にかかわらずすべての人がこのサガルガンをお祝します。1ヶ月にわたってダツツアンでは祈りがささげられ、人々はお互いにプレゼントを持ってお客に伺い、乳製品と肉料理でもてなします。大勢の人がダツツアンにお参りし、清めの儀式を受けます。過ぎ去った年の悪かったことは忘れ、新しい年がよい年になるようお願いするのです。

サガルガンの期間中、ウランウデの市内では広場や劇場で様々なフェスティバルやコンサートが催されます。善と知恵と平安のシンボル、物語の主人公サガン・ウブグン（白い老人）の登場する劇が上演されます。



サガルガンに続いてマースリニツァ（大育前週）が祝われます。これは古代スラブ人の冬を送り春に備える祭りです。ウランウデでは郊外にある民族博物館に行きそこで乗馬や歌や踊りを楽しみます。そこではマースリニツァの象徴的な食べ物ブリニイ（薄焼きパン）が焼かれます。黄色くて丸いブリニイは太陽のふさわしいシンボルです。さらに冬の象徴であるわら人形を燃やして、寒い冬に別れを告げ暖かい春を迎えます。

その40日後にはキリスト教の重要なお祭り - 復活祭が祝われます。この祭りの特徴はよくご存知のようにカラフルな卵、そしてクリーチと呼ばれる円筒形のケーキです。人々は教会での礼拝に参加したり、お互いにお客に呼ばれたりして楽しく過ごします。

真夏になると、競馬場でスポーツの祭典が開かれます。これはスルハルバンと呼ばれ、チンギス・ハンの時代から行なわれている伝統的な祭典です。乗馬、アーチェリー、格闘技などのスポーツのほかには歌やダンス、美人コンテストも催されます。共和国中から参加者たちが集いあい、自分の力を競い合います。

ぜひ私たちのところに来て一緒にお祭りをお祝いしましょう。秋にはウランウデ創立記念日もあり、行列やカーニバルが市内をねり歩きます。ブリヤートのお祭りを体験することは忘れられない経験となることでしょう。



田舎

わたしたちは誰でもきれいな水、おいしい空気、静かな自然といったもともとあたりまえだったもの惹かれるものです。ブリヤート共和国ではそんなかつてあたりまえだったものを見つけることができます。そう、それはどこか懐かしさを感じさせる田舎の村々です。

ブリヤートの田舎を訪れると、古い習慣を見ることができます。郷土料理でのおもてなし、地元の人々が集う礼拝の場所や記念碑など生活に密着したものを村の人々は訪れるすべての人にきつと紹介したがるはず。職人たちは自分たちの腕前をこぞって披露してくれるでしょう。彫刻家、ゴブラン織り職人、鑄造工に会えるかもしれません。

夕方になると焚き火がたかれ、マリン・フルという三味線に似た楽器を奏でる音がどこからか聞こえてきます。



スブルガン 小高い丘の上や山の頂上に建てられた仏教建造物。小さなピラミッドにも似たその建造物は仏教の歴史や教えのシンボルです。スブルガンやストウーバ（仏舎利塔）はその内に陽のエネルギーをためていてそれは人間と自然、あるいは他の動物たちとの調和をもたらすと考えられています。

オボー 峠の神にささげられた道路わきの祭壇。その場所にはたいいて積み上げられた石や、枝いっぱい布が結び付けられている木が立っています。そこでミルクやウオツカ、お茶を振りかけたり、生地の切れ端やコイン、穀物を投げてその場所の霊に旅の安全を祈願します。



料理

以下にあげるのはブリヤートの主だった料理です。レストランで注文することもできますし、家庭で作ってみることもできるでしょう。



ブリヤート料理

羊の頭煮込み これはもっとも大事なお客様に出されるものです。客人に対する最大級の敬意の象徴です。

麺スープ 小麦粉を練って作った麺を、小さく切った肉やたまねぎと一緒に5分ほど煮ます。「長寿のスープ」と呼ばれています。

ポーザ もっとも有名なブリヤート料理。ひき肉を生地で包んで蒸らします。肉まんに似ています。

バルグジン風ペリメニ 細かく切った肉とたまねぎ、にんにくから作ります。西洋梨の形に似ている点で他のペリメニと異なっています。言い伝えによると、チンギス・ハンその人がレシピを考え出したそうです。

クミス(馬乳酒) 雌馬やらくだの乳から作られます。体の調子を整えてくれます。

シャンガ ホットケーキの一種。

エヴェンキスキー料理

エヴェンク人は料理に野生の動物の肉、魚、森の食物を用います。

シラプン 野生の動物の肉や魚をくしにさして焼いたものです。

クルニン 干し肉を卸し、木の実と一緒に煮ます。



シベリア料理

彼らは料理に畑で取れたものやタイガで取れるものを用います。

塩漬け野菜 塩漬けにするもの：キャベツ、きゅうり、トマト。前菜として出されます。細かくしたトマトとにんにくを混ぜ、塩で味を調えたものは「ガルラジヨール」といいます。

モルス コケモモから作る飲み物です。熱を下げる効果があります。



バイカル料理

バイカル湖で取れる魚を使った料理です。オームリ、マス、シロザケ、チョウザメなど。

ウハー（魚のスープ） 漁師は取った魚を内臓など抜かずにそのまま煮ます。そのほうがいいだしが出ると考えられています。「王様の」ウハーは最初にコイやカワスズキを煮て、そのあとそのだし汁でオームリやサケを煮、最後にチョウザメをその中で煮て作ります。





観光

ブリヤートの自然、聖なるバイカル、古くからの文化や伝統 - この地を訪れる多くの観光客はここで初めて目にすることになったものの出会いに魅了されてきました。



ブリヤートには約30の観光スポットや保養地があり、大半はバイカル湖周辺にあります。夏にはキャンプ場、ホテル、民宿、観光客用基地、バンガローなどに宿泊できます。砂浜にテントを張って泊まることもできます。